

平成 29 年度 医療安全管理部 包括的公表

医療安全管理部
医療安全管理室

海南病院では医療安全対策に関する事案の包括的公表を行っています。

1. 目的

: 患者の知る権利を保障し医療の透明性を確保するため、更に職員に医療安全の意識の向上と事故の再発防止に役立てることを目的とする。

2. 対象

: 報告の対象となるものは、患者の生死にかかわる極めて重大なものに限らず、院内で発生したすべてのインシデント・アクシデント、予期しない薬剤などによる重大な副作用や、広く社会に警笛を鳴らす意義が大きいと考えられる報告もその対象としている。

3. 医療安全報告レベル基準

区分	内 容
レベル 0	エラーや医薬品・医療用具の不具合がみられたが、患者さんには実施されなかった。
レベル 1	患者さんへの実害はなかった。(何らかの影響を与えた可能性は否定できない)
レベル 2	処置や治療は行なわなかった。(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査等の必要性が生じた)
レベル 3 a	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
レベル 3 b	濃厚な処置や治療を要した。(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長)
レベル 4	永続的な障害や後遺症が残った。
レベル 5	死亡(原疾患の自然経過によるものは除く)

4. 公表基準及び内容

: 医療安全公表基準は、国立病院機構で使用している患者の影響度のグレード分類にしたがって報告者の評価によるレベル区分、レベル 0 からレベル 3 b までは包括的な資料として、発生件数及び医療安全対策委員会で検討した内容及び改善策・処置などを包括的公表とする

: レベル 4、5 の公表に関しては、発生の原因や予防対策について事例調査検証部会確認にて検討審議し、患者あるいはその家族等の同意及び医療関係者の同意を得て、病院長の決定により公表する。

但し、患者及び家族の同意が得られてない場合は原則公表しない。

(公表基準に基づき、平成 28 年度集計結果を公表。)

1) 平成 28 年度 医療安全報告件数

区分	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3 a	レベル 3 b	レベル 4	レベル 5
報告件数			4167 件				1 件

平成 29 年度
誤った医療の実施の有無

項目	誤った医療の実施の有無			実施あり	合計	
	実施なし					
	影響度					
	当該事例の内容が仮に実施された場合					
	死亡も しくは 重篤	濃厚な 処置・治 療	軽微な処 置・治療 または不 要			
薬剤関連	0	0	219	765	984	
輸血関連	0	0	8	2	10	
治療・処置	0	1	130	65	196	
医療用具	0	1	78	48	127	
ドレーン・チューブ	0	3	1007	75	1085	
検査関連	0	1	228	94	323	
療養上関連	1	12	1162	73	1248	
その他	物品搬送	0	0	4	0	4
	放射線管理	0	0	0	0	0
	診療情報管理	0	0	161	0	161
	患者家族の説明	0	0	23	0	23
	施設・設備	0	0	7	0	7
	その他	0	0	0	0	0
合計	1	18	3027	1122	4168	

5. まとめ

平成 28 年度と比較し、平成 29 年度は職員の安全に対する意識が向上し報告件数が増加した。影響レベル別では、レベル 5 が 1 件発生したがレベル 3 b 以上の事例の減少が見られ、職員全体の安全文化の醸成の改善に向けた取り組みがみられた。

今年度の重点課題として、他院事例より「読影結果の見落とし防止」に取り組んだ。全読影結果について、「経過観察」「疑い」「精査」「治療」の記載があるレポートについて色別に表示し、各依頼医師に配信した。また、依頼部位以外の所見が見つかった場合は、放射線読影医より医療安全管理部に連絡が入り、カルテより受診状況を確認、患者さんが受診されていない場合は、依頼医に連絡し見落とし防止に努めた。

また、転倒・転落防止策として、入院支援センターにポスターを掲示、入院中の患者さんへの転倒転落予防のため、注意事項の放映を病室のテレビの案内を行った。また、各病棟の転倒転落アセスメントスコア実施状況を調査し、危険度Ⅲの患者さんの対策が適切に講じられているか環境ランドを行い周知した。

今後も再発防止に努め、安全・安心な病院として信頼を得られるよう職員一丸となって、医療の質向上に取り組んで行く。